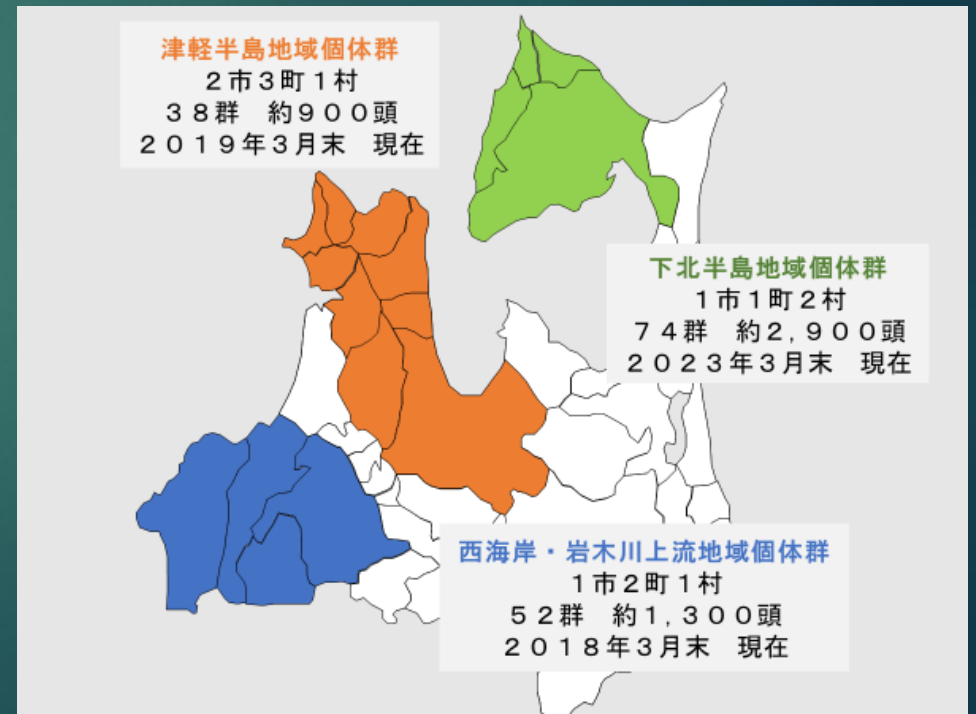




山崎秀春 NPO法人北限の野生動物管理センター理事ほか

活動（背景）

- 本州最北に位置する下北半島は、農業、漁業が盛んな地域
- 昭和45年「下北半島のサルおよびサル生息北限地」として天然記念物に指定
- 当時は、7群・187頭、保護目的のために餌付け
→サルの個体数や群れの増加により、農作物被害・生息地が拡大、現在は74群・2,906頭



活動①

- 昭和55年旧脇野沢村教育委員会職員として、鳥獣被害対策業務を担当
- 平成19年脇野沢村がむつ市と合併
- ニホンザルの保護及び被害対策の広域的な取組の必要性から平成19年5月「下北半島のニホンザル被害対策市町村等連絡会議」設立し、「下北半島鳥獣被害防止計画」策定。
構成：下北管内4市町村、地元民間、下北・大間町・佐井村・風間浦村のサル調査会、学識経験者等で構成

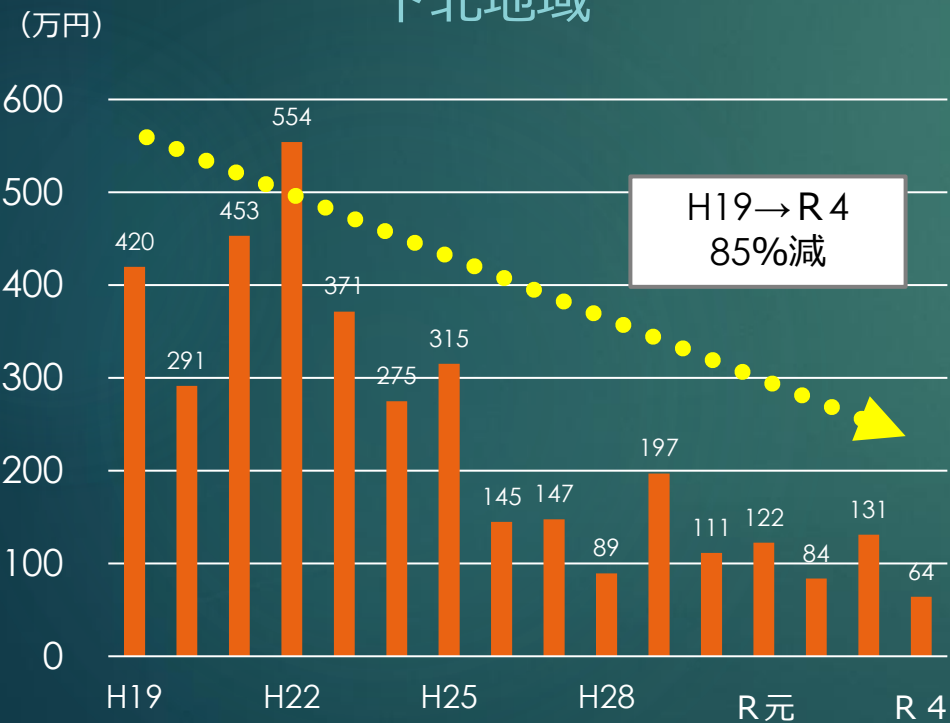
活動②

- 連絡会議を事業実施主体として、鳥獣被害防止総合対策交付金を当初から活用
- 下北地域における広域的な鳥獣被害対策の実施を主導
- むつ市職員を退職後も、同連絡会議の事務局長に就任
- 二ホンザルの生息状況等調査や被害防止対策に係る指導を実施する「NPO法人北限の野生動物保護管理センター」を平成19年設立、生息調査や被害対策等、テレメトリー発信器の装着や麻酔処置を実施するため、向精神薬試験研究施設「北限の二ホンザルネットワーク」を平成29年5月に設立

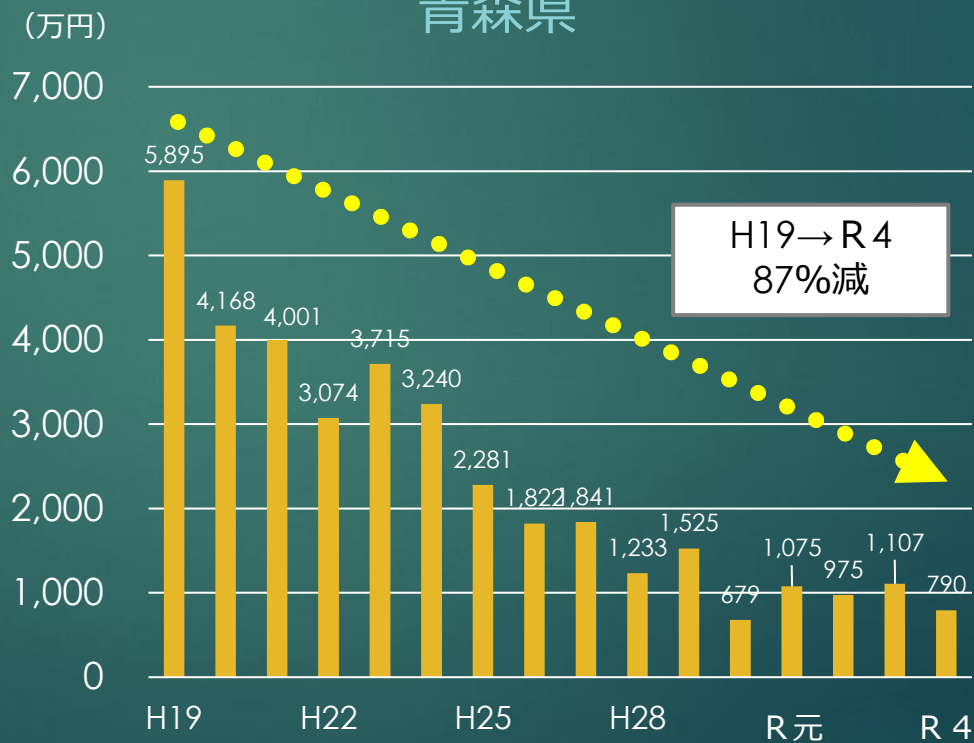
活動（実績）

○平成19年度～令和4年度の下北地域及び青森県
における二ホンザルによる農作物被害額の推移

下北地域



青森県



地域での活動（モンキードッグ等）

○地域一体的な捕獲・被害防止活動の推進

①鳥獣被害防止総合対策交付金を活用し、モンキードッグを活用した二ホンザルの追い上げ・追い払い
・モンキードッグ及びハンドラー兼二ホンザル保護管理専門員を育成

②異動しない鳥獣対策専門員を管内市町村に配置するよう進言し、結果、配置（効果高）



地域内外の活動（テレメトリー等）

○地域一体的な捕獲・被害防止活動

- ①サルの生態等を地域住民を含めた研修により周知
- ②下北地域で培った群れの行動を把握し、管理する技術を
県内各地域の対策に活用
 - ・テレメトリーでの群れの行動把握
 - ・加害群は大型檻等で除去
 - ・テレメトリーを活用できる地域の
人材を育成



地域内外の活動（人材育成等）

- 他市町村の実施隊員等の実地研修の受け入れ
- 県や市町村からの研修等の講師や助言依頼の対応
- ニホンザルの生息状況調査
 - ・サルの個体を識別し、群れの情報を把握



テレメトリーでサルを探しているところ



テレメトリーを装着しているところ
サルは麻酔で眠っています

今後の取組

- 今後もニホンザルとの共存を図るために生息調査、追い上げ・追い払い、捕獲・各種研修など、農作物被害を防止するための各種対策を進めるとともに、助言・助力を求められれば、対応していく
- 青森県内全域を対象に活動しており、地域それぞれの状況があることから、熱意を持った地域の後進も育てていきたい

